

共創モデル実証運行事業 アドバイザリー業務 仕様書

1. 共創モデル実証運行事業実施の目的・背景

城下町エリアは本市の中心的な市街地を形成しており、その入口である杵築バスターミナルは、ＪＲ杵築駅から約５km離れている。

鉄道ダイヤと路線バスの接続は、地域住民の「通勤・通学」に主眼が置かれ、観光客の利用において「交通空白」が生じている。

観光客・インバウンドは、国内では増加傾向にあるものの、本市ではコロナ禍以前の観光客数まで回復していない。

観光誘客のためには、本市の魅力を国内外に向け発信しつつ、本市の玄関口であるＪＲ杵築駅から城下町エリアまで円滑に観光客を誘うことが重要である。

今回の共創モデル実証運行事業では、路線バスを土日祝日に８往復の増便運行することで、待ち時間の短縮（１５分以内）を行い、観光客の円滑な移動を可能とする。

また、実証運行期間中、観光誘客を目的に滞在時間延長プログラム「きつきへＧｏ！」を実施し、本市を観光の目的地として選択するための動機づくりとするとともに、地域経済の活性化を図る。

2. 市が提供するデータ等の概要

①路線バスの乗降人数データ

＊大分交通３台、国東観光バス３台の計６台に乗降人数計測センサーを設置

＊ＪＲ杵築駅から杵築バスターミナル間でのバス停留所ごとの乗降人数をカウント

＊ＪＲ杵築駅と杵築バスターミナルを結ぶ６系統全便

＊城下町エリアにおいて、実証運行期間中、滞在時間延長プログラム「きつきへＧｏ！」を実施する。イベント実施前後の乗車人数の変化等を把握できる見込み

注)乗客個々の乗降及び乗降前後の動態の捕捉は不可。

注)これまで乗降センサーの設置がなく、過年度の乗降人数データとの比較等は不可。

②人流データ

＊公益財団法人九州経済調査協会が運用する「おでかけウォッチャー」から観光スポットにおける人流データの把握を行う。

③滞在時間延長プログラム「きつきへＧｏ！」

公共交通を活用した観光誘客の促進及び地域資源を活用した多彩なコンテンツの展開により、観光客の滞在時間の延長と回遊性の向上、地域経済の活性化を目的に実施する。

【実施を予定している事業】

＊市内周遊事業：スマートフォンとＧＰＳを活用したクイズＲＰＧ

＊武家屋敷活用事業：ＡＲを用いたバーチャル忍者体験、忍者イベントなど

- * 定番グルメ再発見事業：市内20店舗の定番グルメ等の紹介
- * 広告宣伝事業：ポスター・チラシの制作、インスタグラマーによる情報発信
- * 城下町モニターツアー：外国人留学生が対象。インバウンド受入れのための課題の把握と新たな魅力の発見。

④ アンケート調査

調査方法：二次元コードを活用したWEB回答及び聞き取り調査

調査客体：観光客、市民等全体で500件程度、イベント参加者、モニターツアー参加者

調査場所：路線バス車内、主要観光施設、バスターミナル、飲食店等

調査項目：個人の属性：居住地、年代、性別・訪問目的、移動目的、同行者

利用状況と満足度：移動で利用した公共交通、乗り継ぎのしやすさ、待ち時間、城下町周辺での過ごし方、公共交通の満足度

3. アドバイザリー等業務内容

(1) 乗降センサーデータの集計・分析

* 前述の6台のバス車両からバス停ごとの乗降データ（ダイヤ別）エクセルデータ（CSVデータ）を受領予定

* 実証実験の効果を検証するために、滞在延長プログラム実施の前後変化をみる。併せて、広報事業による観光客数の変化についての効果検証も行う。

* 系統別、バス停ごと、ダイヤごとに推移等を比較する。

(2) アンケート結果の集計・分析

【分析イメージ】

- ・ 市民、観光客、それぞれの利用実態と評価
- ・ 年代や目的別の利用実態、評価の比較
- ・ リピート利用の可能性
- ・ モニターツアー参加者（外国人留学生）参加者の評価

(3) 実証運行による効果検証と今後の課題整理

- ・ バス事業者が今後実施するダイヤ改正の基礎データとして活用できるよう整理
- ・ 乗降データや人流データ、各種アンケート等から実証運行の効果検証
- ・ 課題の整理及び次年度以降に向けた取組等について方針を明らかにする。

(4) その他

- ・ 検証結果等を報告書にとりまとめ、提出する（冊子及び電子データ）
- ・ 本仕様書に定めのない事項については、協議の上決定するものとする。